

(別紙様式)

都道府県番号	3
都道府県名	岩手県

()

・学校名及び規模

宮古市立鎌ヶ崎小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19	
児童数	46	43	47	58	67	46	2	309		

・実践研究の概要(テーマ及び設定の趣旨)

<p>・テーマ 基礎・基本の定着を図る国語・算数の指導 - 習熟の程度に応じたコース別学習を取り入れた指導を通して -</p> <p>・テーマ設定の趣旨 日常の授業を通してどの児童にも基礎・基本の内容を確実に定着させることが必要と考えテーマを設定した。 本年度は、習熟の程度に応じたコース別学習と、反復学習を取り入れた指導について中心に研究を行う。</p>
--

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

【習熟の程度に応じたコース別学習の取組について】

(1) 国語科における習熟の程度に応じたコース別学習の取組

NRT結果の分析から、「読むこと」の領域に絞り、次のような基本的な考えで段階的に習熟の程度に応じたコース別学習を行った。

学 年	指導形態等
第1学年	一斉指導による基礎・基本の指導
第2学年	学級内における習熟の程度に応じたコース別学習(入門期の指導)
第3学年	学級内における習熟の程度に応じたコース別学習
第4学年	学年における習熟の程度に応じたコース別学習
第5学年	学年における習熟の程度に応じたコース別学習
第6学年	学年における習熟の程度に応じたコース別学習

(2) 算数科における習熟の程度に応じたコース別学習の取組

基礎・基本の分析から、「数と計算」領域を中心に、単元の特性や学年の発達段階等に応じて、以下のような要素を組み合わせ、コース別学習を設定した。

単位となる集団・・・学年単位：学年内で複数コースを編成して指導

学級単位：学級内で複数コースを編成して指導

指導形態・・・・・・ア コース別 イ 一斉指導+コース別

ウ TTによる一斉指導+コース別

指導単位・・・単元全体をコース別学習にする。

単元の中の適応・習熟段階でコース別学習を取り入れる。

単位時間の中にコース別指導の時間を取り入れる。

() 実践研究の内容

(1) 国語科における実践例

有効度指数 (P2 - P1) / (1 - P1) × 100

月	学年	教材	実践の概要	
6	第6学年	物語文 「やまなし」	単元の中の読み取りの段階において、学年全体を習熟の程度に応じた2コース3グループに編成。上位群(1グループ)は個別学習中心の自力解決重視型、中・下位群(等質少人数による2グループ)は一斉指導による学び合い重視型学習を行う。	上 57.6 中下 63.7
10	第2学年	説明文 「サンゴの海の生きものたち」	単元の中の読み取りの段階において、学級内において選択コースで学習する時間を設定。前時の習熟の程度に応じて、展開の仕方、速さ、難易度等を考慮した1Tによる複式形式の指導。上位群は自力解決を、下位群は教師の支援を受けながら学習を行う。	上中 97.7 下 97.8
12	第3学年	説明文 「動物とくらす」	単元の中の読み取りの段階において、学級内において習熟の程度に応じた2コース(上中位群、下位群)を設定。1C2Tでそれぞれの程度に応じた指導を行う。特に下位群は少人数、スモールステップの対話型の学習を行う。	上中 73.8 下 76.0

(2) 算数科における実践例

有効度指数 (P2 - P1) / (1 - P1) × 100

月	学年	単元・教材	実践の概要	
10	第5学年	平行四辺形と三角形	単元の中で、第1小単元をTTによる一斉指導で行い第2小単元以降に習熟の程度に応じたコース別学習の場を設定(学級2コース)。それぞれの程度に応じた展開の工夫、速さ、難易度等を考慮した指導を行う。	全 77.8
10	第3学年	かけ算の筆算	1単位時間の中で、1C2TのTTによる一斉指導から、適応・習熟段階で習熟の程度に応じたコース別学習(学級内2コース)に分かれる指導を行う。	全 94.6
11	第2学年	かけ算(1) 新しい計算を考えよう	第1小単元をTTによる一斉指導で行い、第2小単元以降は適用・習熟の時間を習熟の程度に応じたコース別学習で行う(学級内2コース)。それぞれの程度に応じた展開の工夫、速さ、問題の難易度等を考慮した指導を行う。特に下位群は、少人数に限定し、個別指導の時間を多く取るなど、丁寧な指導を心がけた。	全 80.1

() 成果と課題

(1) CRT結果のH13年度との比較(第4学年～第6学年)

国語では第6学年が高まったが第5学年は低下、第4学年は変化なし。

算数では、概ね13年度より向上していた。

(2) H14年度CRTの教科毎の評定分布(第3学年～第6学年)

国語ではどの学年も約50%の児童が3段階で、1段階は20～10%。

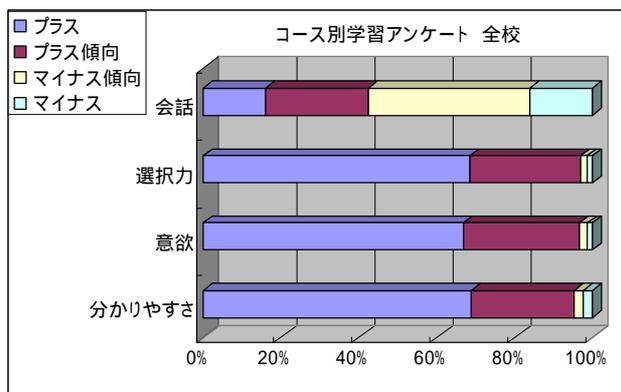
算数では5,6年がやや低いが、第3・4学年は50%以上が3で、1段階は5～25%である。

(3) CRT観点毎の得点率

観点別得点率は、国語では他領域に比べて「読むこと」が66%と低い。

また、算数では知識・理解が80%を超えたが数学的な考え方が67%と低い。

(4) コース別学習についてのアンケート結果



どの学年も「コース別学習の方が意欲がでる」、「分かりやすい」というプラス傾向が95%に達していた。

また、コース選択についても、「自分で選択できる」という意識が95%を超えていた。コース別学習についての家族との会話は「よくする」「する」が40%と少なかった。

(5) 成果

ア CRTの結果から

前年度比は第5学年の国語を除けば、概ね高まっており、学力の向上が見られた。

CRT結果の評定において、概ねどの学年も国語、算数共に80%の児童が3ないし2の段階にあり、特に、第3学年の算数では3の段階が80%と学力が定着していると考えられる。

イ 学習アンケートの結果から

習熟の程度に応じたコース別学習が児童の意欲を高めていること、児童が分かりやすいと感じていることが明らかになった。

ウ 実践から

習熟の程度の低い児童に対する指導のポイントが明らかになった。(人数、指導形態、進め方、場の設定等)

(6) 課題

- ア 国語「読むこと」領域の有効な指導法について研究を進めること
- イ 算数「数学的な考え方」の有効な指導法について研究を進めること
- ウ 上位群の児童に対する発展的な指導についての検討
- エ 目指す児童像の具体化と検証方法の吟味について
- オ 児童の自己評価能力の育成とコース選択のさせ方
- カ 指導体制の一層の整備

() 成果の普及方策

地区研究推進会議及び県研究推進会議において研究成果の普及を図る。